

第二次霧島市総合計画(前期基本計画)総括シート

政策体系	政策No.	3	政策名	やさしさ(誰もが支えあいながら生き生きと暮らせるまちづくり)	施策幹事課					
	施策No.	3	施策名	住み慣れた地域で暮らし続けるための地域包括ケアの推進	保健福祉政策課					
計画期間(2018年度~2022年度)における施策の方針 (総合計画書から引用)					関係課					
住民主体の通いの場を基本として介護予防事業を展開するとともに、高齢者自身が生活支援の担い手として活躍できるよう、ボランティア活動等の取組を推進します。 また、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進します。					長寿・障害福祉課、こどもくらし相談センター、長安寮、健康増進課					
施策の方針に対する達成状況(2018~2022)					後期計画における課題					
<ul style="list-style-type: none"> <li>■住民主体の通いの場である「地域のひろば」の箇所数の増加などにより、介護予防の取組が進んだ。</li> <li>■高齢者の生活を支えるため、地域包括支援センターや成年後見センターを中心とした相談体制の強化が図られた。</li> <li>■在宅での生活が困難な高齢者に対して、養護老人ホームや生活支援ハウス等への入所支援を行うことにより住居が確保され、高齢者が住み慣れた地域で生活するための環境づくりが促進された。</li> <li>■地域包括ケアシステムの構築に向けて、各圏域で「地域の絆プロジェクト」としてセミナー等を実施することで、住民参加と互いに支え合う地域づくりが推進された。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>■介護予防の取組みを市内全域に広めるため、地域のひろばの実施箇所の目標を2023年度までに130箇所としており、今後も実施箇所数の増加を目指して支援を行う必要がある。</li> <li>■年々増加する高齢者や過疎化が進む地域の相談体制や生活支援の整備を促進する必要がある。</li> <li>■住み慣れた地域で継続して生活できる環境づくりのため、高齢者のニーズを把握しながら、施設の供給量の適正化、入所支援等を行う必要がある。</li> <li>■地域包括ケアシステムの深化・推進に向けて、地域特性や課題に対応した取組体制を推進する必要がある。</li> </ul>					
成果指標 (意図の達成度を表す指標)		◎目標達成(100%以上)      △目標を未達成(100%未満)								
		単位	目標達成の方向性	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	達成率 結果
A	心配事や愚痴を聞いてくれる人が「近隣」にいる高齢者の割合	%	更なる増加を目指します	目標値	-	19.0	-	-	21.0	46.0%
				実績値	-	11.0	-	-	9.7	△
B	地域のつながりがあると感じている高齢者の割合	%	更なる増加を目指します	目標値	-	66.0	-	-	68.0	78.0%
				実績値	-	57.6	-	-	53.2	△
C	生きがいを十分・多少感じている高齢者の割合	%	更なる増加を目指します	目標値	-	73.0	-	-	75.0	93.0%
				実績値	-	71.4	-	-	69.5	△
D	自宅における死亡数の死亡総数に占める割合	%	更なる増加を目指します	目標値	8.0	8.3	8.6	8.8	9.0	
				実績値	7.6	9.2	9.2	9.4	R5.9把握	
E				目標値						
				実績値						
基本事業	5年間の取組内容			5年間の取組成果			後期計画における課題			
①介護予防の推進と高齢者の生きがいづくりの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>■高齢者等の介護予防の取組を推進するため、自治会等で取り組む住民主体の通いの場である「地域のひろば」の実施箇所の支援を行った。</li> <li>■市内の専門職等を「地域のひろば」等に派遣し、介護予防の普及啓発のために「きりしま元気一番講座」を行った。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域のひろばの実施箇所が2018年度68箇所から、2022年度105箇所に増加し、介護予防に取り組み高齢者等も増えた。</li> <li>■市内の専門職等の協力も得られ、専門職等の派遣も定着し、介護予防の知識の普及が図られた。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>■すこやか支え合いプラン2021(第9期高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画)では、地域のひろばの実施箇所の目標を2023年度までに130箇所としており、今後も実施箇所数の増加を目指して支援を行う必要がある。</li> </ul>			
②高齢者の在宅生活を支えるサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>■高齢者等が身近な場所で専門的な相談が行えるよう地域包括支援センターや成年後見センターを中心とした体制を整えた。</li> <li>■高齢者の在宅生活を支えるために、多職種による地域ケア個別会議を行った。</li> <li>■高齢者の生活支援、介護予防等の推進を図るため、短期集中型予防サービスの実施や、インフォーマルサービス(公的サービス以外の支援)を含めた支援の検討を行った。</li> <li>■認知症高齢者等、行方不明者の早期発見に繋げる、「みまもりあいアプリ」の普及・啓発を行った。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>■高齢者の生活を支えるため、地域包括支援センターや成年後見センターを中心とした相談体制の強化が図られた。</li> <li>■地域ケア個別会議を行うことで、高齢者の自立支援・重度化防止や介護支援専門員等の資質向上に繋がった。</li> <li>■高齢者の自立支援に繋がり、自宅での生活を継続するための支援が図られた。</li> <li>■認知症高齢者等の行方不明時に、家族や支援者がICTを活用して捜索依頼を行う体制整備に繋がった。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>■高齢単身世帯、高齢夫婦世帯の比率の上昇に伴い、身寄り問題や生活上の問題(移動・買物)、生活困窮、健康不安など多種多様な相談が増えている。多種多様な課題を抱える高齢者を支援する体制を構築する必要がある。</li> </ul>			
③高齢者の居住の安定の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>■環境上の理由や経済的な理由等により在宅での生活が困難で、何らかの支援を必要とする高齢者について、養護老人ホーム、生活支援ハウス等への入所支援を行った。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>■在宅での生活が困難な高齢者に対して、養護老人ホームや生活支援ハウス等への入所支援を行うことにより住居が確保され、高齢者が住み慣れた地域で生活するための環境づくりが促進された。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>■住み慣れた地域で継続して生活できる環境づくりのため、高齢者のニーズを把握しながら、施設の供給量の適正化、入所支援等を行う必要がある。</li> </ul>			
④住民参加と互いに支えあう地域福祉の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地区自治公民館、自治会やボランティアと協力しながら、地域福祉ネットワークの強化を圏域ごとに図った。</li> <li>■地域に地域見守り支援員を配置する体制を構築し、高齢者等の見守り活動を行う体制整備を行った。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>■社会福祉協議会を中心に「地域の絆プロジェクト」としてセミナーや情報交換会を圏域ごとに実施することで、地域づくりが推進された。</li> <li>■市の独自資格である地域包括ケア・ライフサポートワーカーの養成や、まちかど介護相談所等の設置により、地域における相談体制の強化が図られた。</li> <li>■互助活動が推進され、高齢者等の見守り体制の強化が図られた。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域包括ケアシステムの深化・推進に向けて、市内10圏域(国分北・国分・国分南・溝辺・横川・牧園・霧島・隼人北・隼人南・福山)の地域特性や課題に対応した取組体制を推進する必要がある。</li> </ul>			